

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会				
事務局 (担当課)		博物館 電話042 - 750 - 8030 (直通)				
開催日時		令和5年7月11日(火) 午後1時30分～午後3時30分				
開催場所		博物館 1階 小会議室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	0人(別紙のとおり)				
	事務局	5人(佐々木館長、外4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		(1) 相模原市立博物館活動評価書について (2) 令和4年度博物館事業報告について (3) 令和5年度博物館事業計画について (4) その他				

議 事 の 要 旨

(1) 相模原市立博物館活動評価書について

相模原市立博物館活動評価書について、事務局より説明を行った。

(中里委員) この評価自体は教育委員会に報告するというお話だが、相模原市が独自で行うものなのか、日本全国の博物館でそのような事を行っているのか、位置付けがわからない。例えば東京都のどこかの区の博物館と比べてその点数に差があるためなどというものなのか、その辺りの位置付けを教えていただきたい。

(事務局) 博物館評価については、平成 2 0 年の博物館法改正に伴い、実施することが決まったもの。このことにより、それぞれの博物館でどのように評価を行っていくのかを決め、相模原市立博物館においては、平成 2 1 年から 2 4 年まで評価の方法を議論してきた。そして 2 5 年に初めて評価を行ったという経過がある。

当初は相模原市総合計画が 3 年ごと、前期、中期、後期の計画というのに合わせて 3 年ごとに評価をしていた。

また、教育委員会にも点検・評価というものがあり、こちらは 1 年ごとに行っている。今年度は先ごろ 4 年度分の評価が確定し、9 月議会で公表する予定。この時期に公表することにより、翌年度の予算に反映できる。

しかし、博物館のように 3 年ごとに評価していると、予算に反映させるのが難しい。評価を反映するのに時間がかかり過ぎるのではないかと、より良い活動に生かすのにタイムラグがあり過ぎるのではないかと指摘があり、生涯学習部では今年度から、図書館も 3 年間であったものを、当館と合わせて毎年評価を公表することになった。それにより、今回このような審議をしていただくという流れになった。

評価については、各博物館、どこの博物館においても、ほぼ行っているが、その評価の仕方については、基準等決まりごとがなく、年数においても単年で行っている館もあれば、3 年、2 年単位で行っている館もある。また、段階評価についても、行っている博物館、行っていない博物館があり、この評価で他の博物館と比べるということは難しい。

(中里委員) 旅先で、その地域の博物館に寄って、すごく良いと思った。私は相模原市の博物館も好きなので、そこで、点数が辛めにつく土地と甘めにつく土地があって、相模原の方が良い、悪いとなるのは嫌だなと思ったが、その時の評価の点数はそんなに気にしなくて良いと了解した。

(事務局) 段階評価については、博物館によって数字で表記する博物館もある

ことや、アルファベット表記においてもS A B CやA B C Dで表記するなど、博物館ごとに様々である。また、段階評価をホームページで公表する博物館もあれば、公表していない博物館もあるなど、統一されたものがないというのが現状である。

(浜田委員) 埼玉県立博物館 5 館、神奈川県立歴史博物館、国立文化財機構という日本の国立博物館 4 館、文化財研究所 3 個所の評価委員をやっている。各博物館評価は違うが、行政に示すためには点数化した方が分かりやすいということで、今回のように点数化する博物館が最近は増えているという印象を持っている。今回相模原の方法も行政に説明するには文字より分かりやすいと思う。今回の A B C で点数化するのは一つのやり方として良いと思う。実は今、国立文化財機構の評価方法も正にこのやり方である。毎年 1, 0 0 0 ページの評価を職員が作っているが、博物館側で自ら S A B C を付けてそれを外部評価委員の判断で評価が違ふと思うところだけ評価変更を行っている。

また、今回の評価内容で、調査研究と資料収集を入れたことは大変素晴らしい。

細かいことだが、今後の定性評価項目の 4 - 1 - 1 の他機関への講師派遣は、学会・研究会への役員・委員としての協力となっているが、年報を見ると、他市や他の団体の委員といているので、学会・研究会というよりは、ここは、他機関・団体という表現の方が合っているのではないかと思った。

(岩野委員) 私もこの総合評価、点数評価になったことは良い事だと思った。客観評価としてまず、見やすく、理解しやすい。問題は単年度評価として、例えば今回 3 . 3 という数字が出ているが、それを改善していくことが求められることであり、大事な事である。数字というのは分かりやすいだけに、それをいかに上げていくかという努力というものが更に求められていくものであり、そういう点でも分かりやすい基準作りとなっていると思う。

浜田委員と重複するが、今後の定性評価の大項目 1 - 4 の順番もすっきり分かりやすい。1 番に「博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動」を持ってきたのはとても分かりやすい。まず、調査研究と収蔵資料それから次に展示教育普及という大きな二本柱をしっかりと前に持ってきたという点は評価している。

1 - 1 - 1 とか 2 - 3 - 1 であるとか小項目は、科学的な立場からすると、この様な形にはあまりしない。例えば、大文字の 1 の次は (1) とかそういう順番がある。そういう羅列の方が私には見やすい。

大中がつながって見やすいというのは分かるが、小項目の最後の1はいらなくて、例えばそこはスモール a b という形にした方が良いと思う。私にはその辺りに違和感を感じてしまう。行政の文書の書き方などで、こういう形で統一しているとか、そういう決まりなのか。

(事務局) そのことについては、公文書の規則があり、役所の公文書の書き方、順番の付け方に準じてやっていきたいと思う。

小項目だけを見てもどの項目にぶら下がっているか分かるようにしていきたい。

(五十里委員) 評価をするときに項目だけを見て、評価するのか。例えば資料3を見ると、一番上に大項目と中項目があって、そこに数値が入るのは分かるが、資料収集及び調査研究とその成果の公表などは、一年間での目指すべき姿という基準があって、それに対してA B C とするのかなどと思っている。どんな目指すべき姿を一年間で目標としているか、資料の充実を図るに越したことはないのだが、どの位までをこの一年間での達成としているのかなどがあると評価を付けやすい。学校でも生徒のためにいかなることも限りなくやっていくのが一番良いが、一年間の目標で、やれることとやれないことがあるので、漠然とAとかBを付けるのではなく、目標があってそれと照らし合わせてやるとやりやすい。一文でも今年度の目標を加えることはできないか。

(事務局) 目標を設定するというのは案として出たが、すべての項目で目標を立てるのは難しい。数値化目標ができない項目もある。単年度で細かく数字を区切るとするのは難しい。目標については立てずに、成果はかなり主観的になってしまうとは思うが、委員の皆様の主観で良いので付けていただけたらと思う。

年報に毎年博物館重点目標を記載させていただいており、必ずしも評価書と一対一で対応している訳ではないが、今年度はこういう項目に力を入れていきたいという項目出しをしているので、これを含めて内部評価で、やろうと思っていたことができた、できなかったなどのコメントをさせていただくことはできる。目標といっても数値目標ではなく、理念的な目標という形にはなるが、今後、目標が評価と一対一で対応となるようまた検討する。

(2) 令和4年度博物館事業報告について

令和4年度の博物館事業について、事務局より説明を行った。

(3) 令和5年度博物館事業計画について

令和5年度の博物館事業計画について、事務局より説明を行った。

(岩野委員) プラネタリウムの子ども料金が10月から無料化になるということ

だが、条例には反映しているのか。

(事務局) 条例の改正については3月議会での議決を経て4月1日に公布されているが、条例施行日が10月1日になるということである。

(中里委員) プラネタリウムの更新については、リニューアル後の座席数の増減はあるのか。

(事務局) 座席数は減る予定である。平成7年に当館がオープンした頃と比べると子どもの数が減っている状況であり、学校利用という面では現在の210席までの確保は必要ないという判断である。また、近年の座席自体の規格もゆとりのあるものとなっており、少し広めとなることによる快適性を追求するというものである。

(藤田委員) 子どもの数は確かに減っている。今年度でいうと淵野辺小学校が一番多くて184人位である。来年度以降どうなるか分からないが、それ以下になることはあるのか。

(事務局) 大幅な減少はない。現在210席だが、当初は250席だった。その後、見づらい席は取っていて、今も実際は210席より多い座席数はある。180まで減るということはない。

(藤田委員) 今年度は12月以降使えないということだが、プラネタリウムの更新は令和6年度の下半期からということか。詳しくはいつ位からか。

(事務局) 今のところ、あくまでも予定となるが、年明け位からを予定している。なるべく学校のプラネタリウムの利用に影響が出ないような形で行いたいと思っている。

(藤田委員) 学校としても1月以降の方がありがたい。

(浜田委員) 昨年度の事業報告の中で、磯部民俗資料館が閉館され、その資料の寄贈を受けたという報告があり、現在整理中ということだが、実際の資料点数はどれ位あったのか。分かればで良いのだがということと、年報にトータルの資料点数は掲載されているのだが、その年度でどれくらい集まったのかは分からないか。

(事務局) 磯部民俗資料館からの寄贈資料点数は、現時点では担当者レベルでないと分からない。評価するうえで、資料点数の増減は重要だと思うので、評価の際は分かる資料を付けたいと思う。

(岩野委員) 年報の中で入館者数、各イベント等の参加者数は下一桁まで細かく出ているが、具体的にはどういう形でカウントされているのか。

(事務局) 入館者数に関しては入口に赤外線センサーがあり、「入」があって「出」があるので、事務室のカウンターに記録された数字を1/2にした数で出している。

団体の中でも、保育園や小学校は2列で同時に入ることが多いの

で、補正をしている。

何年か前に実際に目で見えた数と比較したことがあったが、補正結果と大差なかった。

特別展示室も同様のカウンターがある。だが、企画展は整列入場ではなく自由入場しているので、補正はせずに1/2としている。

ミニ展示は、誰が見たかわからないので、期間中の入館者数としている。

(岩野委員) それらを集計する専門の職員がいるのか。年報も膨大な一年間の活動の記録をこれだけまとめるということはすごい労力である。

(事務局) 専任の職員はいないが、企画情報班が日々の日報を付けており、それを全体で共有してということ積み重ねたうえで、更に毎月の月報を作成し、12ヶ月分溜まったところで、その膨大な量の統計をまとめている。

(4) その他

特になし

次回は令和5年10月頃の開催を予定。

以上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	藤田 博己	市立大野台小学校校長		出席
2	五十里 雅子	県立相模原弥栄高等学校校長		出席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会副会長		欠席
4	篠田 春美	元 市 P T A 連絡協議会副会長		出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	副会長	出席
6	岩野 秀俊	元 日本大学生物資源科学部教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学人文学系長・教授		出席
8	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 副所長		欠席
9	山本 幸奈	公募委員		出席
10	中里 真紀子	公募委員		出席